

# 島根県トライアスロン協会 会報

2024年10月吉日

島根県トライアスロン協会の会員の皆様、こんにちは。この度島根トライアスロン協会会報誌担当となりました隠岐の島に加藤一朗です。私の自己紹介は今後会報誌においてさせていただきますが、まずは会員の皆様の活発な交流の場となるべく会報誌作成に全力を尽くしますのでどうぞ宜しくお願い致します。

一応季刊発行（1月、4月、7月、10月の各1日）を目指しております。会員皆様からの投稿を是非お願い致します。過去の会報誌では、レースレポート、新会員紹介やコラムなどありましたが、なんでもOKですので、発行前月の20日までに（1月発行であれば12月20日までに）、私のメール（[machokato@smn.enjoy.ne.jp](mailto:machokato@smn.enjoy.ne.jp)）に原稿送付お願い致します。

## 【2024年秋号目次】

- ① 私のトライアスロンライフ  
島根県トライアスロン協会顧問 大野徹雄
- ② 2024 ワールドトライアスロン世界エイジグループ・マルチスポーツ選手権  
（オーストラリア・タウンズビル）参戦報告レポート 井上盛文
- ③ 第42回全日本トライアスロン皆生大会 平塚洋介
- ④ 「第6回さくらおろち湖トライアスロン大会」を終えて  
（一社）島根県トライアスロン協会 普及・技術委員長 木村 孝
- ⑤ 第21回キッズスイムラン in 多伎と題して  
キッズスイムラン in 多伎実行委員会 岡 秀樹
- ⑥ チャレンジ隠岐の島2024～ジュニアトライアスロン～ 加藤一朗
- ⑦ 【レースレポート番外編】隠岐古典相撲大会 加藤一朗
- ⑧ 【連載】＜新米審判員メモ①＞ 加藤一朗
- ⑨ 【トライアスロンクラブ紹介】  
浜田トライアスロンクラブ・島根トライアスロンクラブ・Team SSS
- ⑩ 役員紹介 一般社団法人島根県トライアスロン協会（STA）会長 新井千尋
- ⑪ 賛助会員紹介

## 「私のトライアスロンライフ」

一般社団法人島根県トライアスロン協会 (STA)

大野 徹 雄

2024年6月30日(土)、島根県トライアスロン協会(STA)社員総会席上において、この度の一般社団法人設立及び、協会理事長、JTU 中国ブロック協議会理事・会長としての4年間の活動に、感謝状を付与して頂きましたことに厚く御礼を申し上げます。

新たな STA の門出と、個人的には八十路(ヤソジ)突入を間近に控え、引退時期でもありますので身近なリアルロードの声としてご一読願います。

今を遡ること40年近く前の夏、新入社員を引率し恒例の大山登山で著しい体力低下を実感いたしました。

中年のおつつあん一直線のライフスタイルに、とりあえず「歩くこと」をとり入れましたが手ごたえは全く無く、悶々と日々を過ごすことになりました。

月日とともにジョギング程度はできるようになり、勤務先では出張が多い部署に在籍していましたので、東京・名古屋・大阪・広島・博多までの主要都市で早朝ランニングのマイコースを開拓し、ラングッズをバッグに忍ばせて各地を走るまでになりました。

そんなある年、一畑マラソン参加の折、デュアスロン大会の募集を知りました。当日会場でグッズ一式、特別に用意しておくとの説明に好奇心を抱きながら帰路につきました。

その大会が湖遊館をメイン会場にした島根県トライアスロン協会主催の「デュアスロンひいかわ」でした。

図々しくも大切なバイクにヘルメットまで全てお借りして無事にフィニッシュ。ランニング大会とは大きく違う、思いもよらぬ演出で迎えて頂きました。

全ての走者に対し、労い(ねぎらい)の拍手と笑顔、さらに特製の大型タオルまで肩にかけて頂いたのです。ラーメンの屋台まで用意してありました。

草地の上での歓談も極めて自然で、参加選手や役員の皆さんとも即座に打ち解け、2種目までこなせた自分に大きな達成感を味わうことができました。

あの頃の大会役員の皆さま方こそ、今でも STA の運営に関わる役員の方々であり、先に退任された OB の皆さま方です。

デュアスロンひいかわ、そして島根県トライアスロン協会との出会いがその後のトライアスロンライフの原点となりました。

「泳ぐ、こぐ、走る」が当たり前の生活となり、各地のマラソン大会やスイムラン、51.5km のスタンダードまでこなせるようになってきました。

そのうち視野にも入っていなかった「皆生トライアスロン」なるものに、生涯一度でいいから出てみたいとの野望まで抱くようになりました。他の大会には興味ももてなくなり、すっかりゾーンに入ってしまった私の皆生大会は生涯 16 回の出場までつながることになったのです。

そして皆生大会で出会った多くのドラマは、私の人生に多くの感動と彩りを与えてくれることになりました。

特にボランティアの方々の応援は日本一と聞いていました。

スタートからフィニッシュまでの長い一日を、どこの馬の骨とも知れないおっつあんに対し、「頑張ってください! 頑張ってください」の声援は、走っても走っても、どこまで走っても続いていきます。

エイドステーションでは口元の梅干しのタネやレモンの皮まで素手で受け取ろうとしてくれます。

豪雨に見舞われた大会に参加したときです。

バイク復路で戦意喪失。たどり着いたエイドステーションでリタイアを申告してしまいました。

ほどなくボランティア参加をしている女性より、娘が着ているボランティア T シャツにサインをして欲しいとの申し出がありました。

リタイアを決め込んだ根性無しの私がサインなどできるはずもなく、ひたすら断り続けましたが、ついにフィニッシュをすることを約束してびしょ濡れの少女の肩口にサイン。

エイドステーションの皆さんの割れるような拍手と声援を背に、豪雨のなかへ再び飛び出しました。

ラン折り返しの境港までたどり着いたとき、大雨警報によりついに大会中止となってしまいました。

約束のフィニッシュは実現しませんでした。皆生の鉄人のプライドにかけ、最後まで走り続けた私は、まさに Brave&True の理念に背くことなく少女との約束を果たし、忘れられない大会のひとつとなりました。

後に風の便りでお聞きした話では、そのお嬢さんはフランスに在住しておられ、たまたま帰国。

日本での夏季休暇の体験として皆生トライアスロンのボランティアにお母さまが申し込まれて一緒に参加なさっていたそうです。

豪雨のなかのひとときのできごとでしたが、そのお嬢さんにとっても思い出に残る夏休みの一コマになっていればいいな、といまでも思い出すことがあります。

徐々に興奮の高まる大会前の一週間、究極の大会当日、大会後の一週間は心地よい二日酔い状態です。

どんなジャンルの音楽も心地よく、日々の苛立ちや嫌なことも素直に許容でき、人に優しくなれてエモい自分に変身します。

選手から元気や勇気もらえるので毎年ボランティアに参加していると聞くことがありますが、「選手が元気や勇気を頂いている」のが正解です。

そんな環境に一日中身をゆだねる究極の非日常の積み重ねで、次第に神っていく自分が出現することもあります。

被災地のボランティア活動に自ら参加し、募金活動を開催する新しい自分の発見もありました。

「KAIKE 命」で過ごした貴重な人生の一時期、トライアスロンから多くを学んだのです。

ふたつ目。

2019 年夏、島根県トライアスロン協会より、日本トライアスロン連合 (JTU) 中国ブロック協議会の理事 (会長) に推挙されるとともに、協会理事長の大役を仰せつかりました。

しかし、翌 2020 年から新型コロナウイルス騒動が始まり、大会開催どころかあらゆるイベントがストップいたしました。

やったことと言えば、JTU との顔つなぎをもとに、中国ブロック及び協会内への依頼ごとや数々の会議の開催・報告、調整ごとに終始し、外出することはありません。

明けても暮れても狭い我が茅屋でのパソコン業務と、電話でのお願いごとや、催促を通り越した督促のネゴシエーターと化した 4 年間となりました。

妻には「お願いすます! (出雲弁)」「そこを何とか!」「ありがトございます~!(出雲弁)」「助かります!」「宜すくお願いすます!! (出雲弁)」等々、テンション MAX、ゾーン入りまくりのフレーズをすっかり覚えられ、今でもマネをされています。

数々のムチャ振りにも関わらず、中国ブロックの加盟団体役員の皆さま方には嫌な顔一つなさらずご協力を頂きました。

コロナ禍のハンデキャップをものともせず、次第に絆も深まり情報交換も有意義で全てが参考になったことは言うまでもありません。

また、時代を先取りし将来を見据えた JTU の事業展開や全国加盟団体との協調体制の構築など、全てにわたってスピーディ且つ気配りにあふれた組織体制は私の想像を遥かに超えていました。

惜しむらくは 70 歳を越えてからの中国ブロック協議会理事としての体験だったことです。

学んだ知見やノウハウ、JTU 及び全国加盟団体で築きあげた人脈を活かし、具体的に加盟団体の活性化に注力できるのはブロック理事退任後の取り組みとなります。

大会参加に没頭していた頃とは異なる、もうひとつのトライアスロンは大きなやりがいにつながるものと認識を新たにしました。

加盟団体の皆さま方には、機会とめぐり合わせあるならば 50 代、遅くとも 60 代前半あたりで積極的にブロック理事としてトライアスロンに関わってください。

限りなくアメージングなフィールドが待っています。

他人や組織から与えられるものではなく、いかにして自分を精いっぱい育て、表現するのが自分の、そして所属する組織の未来を導いてくれるものと思います。

あなたの協会の、あなたのブロックの、さらなる発展と活性化を目指して大好きなトライアスロンライフの第 2 ステージの扉を開けてください。

「ありがとうトライアスロン ありがとうトライアスロンファミリー！」



## 2024 ワールドトライアスロン世界エイジグループ・マルチスポーツ選手権

### (オーストラリア・タウンズビル) 参戦報告レポート

井上 盛文

この度は、世界選手権（オーストラリア戦）出場にあたり皆様方から沢山の激励を頂きありがとうございました。お陰様で無事ゴール出来ましたこと心から感謝申し上げます。最初に、世界選手権出場権利を得られた経緯からお話しさせていただきます。

トライアスロン歴 25 年、いつもロング部門では皆生トライアスロンしか見向きもしなかった私が、年齢も年齢だからトライアスロン人生最後にといい、昨年ロング 4 大会の制覇を目指すことにしました。そして、初めて昨年 6 月に五島長崎国際トライアスロン大会、9 月に佐渡国際トライアスロン大会、2024/4 月に宮古島トライアスロン大会に挑戦！（しかし、宮古島トライアスロンは残念ながら落選し未出場）

結果は、五島長崎（バラモン）エイジ 1 位、佐渡（アストロマン）エイジ 2 位の成績で、見事トライアスロン人生初 念願の「年間 LD エイジチャンピオン」になる事が出来ました。これはとても嬉しいことでした。そして、2024 ワールドトライアスロン世界エイジグループ・マルチスポーツ選手権（オーストラリア・タウンズビル）の出場権利を得る事が出来ました。



【2023 年度 LD エイジチャンピオン賞状】



【松本華奈さんと共に記念撮影】

2024年5月13日

ワールドトライアスロン協会  
事務局長 佐藤 誠 様

公益社団法人日本トライアスロン連会 (JTU)  
会長 岩崎 充実 様

ワールドトライアスロンマルチスポーツ選手権 (2024/タウンズビル)  
大会出場資格証明書について (案内)

本会より本会の会報等に対して掲載のご協力を提供申し上げます。また、本会所属の大会役員等に対しては大会の出場資格を認めていること、出場資格を認めたこと、お知り頂きます。

出典者: 井上 盛文  
登録団体: 長崎県トライアスロン協会  
大会名: ワールドトライアスロンマルチスポーツ選手権 (2024/タウンズビル)  
開催日: 2024年4月25日  
開催地: オーストラリア・タウンズビル  
公認: ワールドトライアスロン (ITR)  
出場種別: ロングディスタンストライアスロン  
備考: 大会登録詳細については大会ホームページ (Eメール) を参照すること  
(Eメール) <https://www.jtu.org/event/5568/>

以上

公益社団法人日本トライアスロン連会 (JTU)  
事務局 (住所): 埼玉県川口市 栄町 1-2-1  
〒130-0013 東京都葛飾区亀有 4-1-2 Japan Sport Olympic Square 7F 708  
電話: 03-5786-0515 (TEL) Fax: 03-5786-0516  
Eメール: [info@jtu.org](mailto:info@jtu.org)

#### ← 【大会出場証明書】

思い起こせば、皆生トライアスロンに出場する事が目標で、初出場の 2001 年以降 23 回出場（一度怪我の為棄権）し、毎年この大会をメインに日々のトレーニングを重ねてきました。

幾度か怠けてしまうこともありましたが、コツコツ努力を積み重ね諦めることなく継続は力なり、でここまでやってきた事が今回の結果に繋がったのではないかと思います。ここまでこれたのも家族の理解と、team のメンバー皆様と共に練習の努力があつての事でとても感謝しております。

なかなかチャンピオンになれるものでもなく、今回、地元紙の新聞（山陰中央新報）にも“松本華奈さん”と共に取り上げて頂きました。その反響は大きく、NHK 松江「しまねっと610」に特集で放送して頂いたりしてちょっと地元を盛り上げる事も出来ました。この様なプレッシャーの中、何もかもが初めてで不安の多い海外遠征でためらいもありましたが、皆さんの押しもあり出場を決意。出場するからには精一杯全力を尽くし悔いの残らないよう頑張っていくことを覚悟で本番に臨みました。

◆8月22日（木）9:15 出雲空港を3人の美女に見送られ、いざ！オーストラリア戦向け出発。

片手にバイク  
もう一方はスーツケース  
かなりの重量オーバーで超過料金取られました。  
（今後の反省となりました）



今回、山陰から私一人という事で不安もあり、JTU 主催のツアーで参加。成田空港 16:00 集合でこの状態で羽田空港⇒成田空港へ。早く行き過ぎて時間を持て余す。そうこうしてるうちに、JAPAN メンバーが徐々に集まり、早々に一人二人と仲間ができて不安と緊張も少しづつ解消してきた。総勢約 50 人のツアーでした。

20:05 成田空港発→04:25 オーストラリア/ケアンズ空港着（機中泊）時差は 1H でほぼ問題なし。その後、大型バス 2 台で会場となるタウンズビルへ移動。移動距離 450Km 休憩も入れて 5H の移動時間。飛行機もバスもほとんど寝た気がしなく移動だけでぐったり。

宿泊先のホテルについたのが 8 月 23 日 AM11:00  
チェックインまで時間がある為、荷物をホテルに預け 2Km 先の受付会場まで徒歩で移動。受付が終わると、明日の 15:00 の JAPAN ミーティングまで自由行動。  
（寝不足なのに、この頃はもうハイテンション）



【宿泊先ホテル】



【受付会場へ移動】



【CHECK-IN】



【日の丸の旗】

受付後、自由時間を有効に過ごしました。

◆8月23日(金) レース2日前

仲良くなったら5人組でレストランのテラスでランチ。

食べ物は何も問題なく美味しかったです。  
ビールも、ただ、一人前の量にはびっくり！  
一人では食べ切れいほどでした。



(そう言えば、バスでの移動中ドライブインに寄って、朝食用としてサンドウィッチを注文したがこの時の量にもびっくりでした。)

スイム会場となる海岸は砂浜。周りはまるで南国の風景。



雲一つない青空。  
海岸通りはヤシの木が連なる。  
日差しは強いが湿度が低い分木陰はひんやり。  
気分はハイテンション。



辺りを散策しながらホテルに戻りチェックイン。

ホテルの室内も広くバイクの組立にも不自由なし。組立後、バイクの試走にお出掛け。  
長く続く海岸道路をひたすら試走、街中に入るとレトルの街並みが凄い、海外に来た一っ  
て感じでした。

バイク試走後は、ラン試走に！夕方の海岸通りはとて  
も綺麗でした。治安もよく夜でも安心して街中を歩ける  
ほどでした。

ランチタイムが遅かったので夕食は各自でということ  
になり、近くのスーパーマーケットで買い物し各自で部屋  
のみ。スーパーでの食事も全く問題ないがここでもまた  
また量にはびっくり。(因みに、このツアーは朝食のみで、  
昼食夕食は各自で、、、なんです。)

泊まったホテルは10階の部屋で景色が最高。



【昼間】



【夕日】



【夜景】

部屋から見える小高い丘  
Castie Hill(キャッスヒル)は、  
夜になると、虹色にライ  
トアップされとても癒さ  
れます。

ここで、本日は就寝。

◆8月24日(土) レース前日。AM6:30 起床。(前日の移動の疲れか?ぐっすり眠れた)  
7:00 朝食、ここで仲間が一人増え、これより帰国するまで仲良し6人組で全てを行動することとなる。本当に良い人ばかりでとても楽しい時間を過ごせる事が出来ました。

朝食後、バイクでスイム会場へ移動し試泳。  
水温23度。ちょっと冷たかったけどウエットスーツが濡れるのがいやだったからウエットスーツなしで試泳しました。けど、さほど寒さは感じなかった。

期待していた透明度の高い綺麗な海をイメージしていましたが、裏腹に濁った海水、そしてなんとしょっぱい!程々に試泳終えた頃、なんとエリートの上田藍ちゃんが登場!一緒に記念撮影。



スイム試泳後は、バイク試走(一部コースを下見、路面は日本の道路よりはるかに綺麗)  
試走後、ホテルに戻りランチタイム。

ランチはホテル近くのレストランへ。

ここで、ビーフバーガーを注文。やはりでかい!

ボリューム感ありあり。

お値段も日本の2倍はする。

でも、とても美味しく満腹。



ランチ後、ホテルから3Km先のトランジットエリアまでバイクに乗りバイク預託へ。  
その後、team JAPAN ミーティング。エリートのメンバーも含め全員で記念撮影。



自分のバイクがどこにあるのか探すのに一苦労な広さです。

(みんな素晴らしいバイクばかりです)

その後、散歩をしながらJogでホテルまで。

この日は、軽く夕食をとり

本番に備え

早めの就寝。



◆8月25日(日) レース当日。AM3:30 起床。

AM4:30 にフロント集合。タクシーで会場へ行くはずが、ここでアクシデント！

6人でタクシーを2台手配したはずが、1台しか来なく(後1台は直ぐに来るからと言われ)女性3人先に乗せ男性3人は次を待つことにした。しかし、なかなか来ない。しびれを切らし時間に間に合いそうもない為、3Km先の会場(トランジット)まで重たい荷物を肩に下げ歩いて行くことを判断！

ここで既に体力消耗。何とか時間には間に合ったが朝からヒヤヒヤでのスタート。

落ち着きを取り戻しながらトランジットで準備、そして、荷物を預けスイム会場へ。

(トランジットからスイム会場までは、450mもある)

◇スイム：3Km(反時計回り1.5Km×2周)

AM7:00 先ずはエリートからのウェイブスタート。

年代順に私は、第3グループ目でAM7:15 フローティングスタート。

スイムウォームアップの時間が設定されてなくいきなりスタート。信じられない！(海外の大会はそれが普通らしい)私は、自信がなかったのでエリートがスタートした後片隅でアップを始める。それも次のスタート(AM7:05)までに終える。

【気合を入れてスタート位置へ】



【無事スイム完泳】

6グループに分けた事、フローティングスタートの事もあり、スタートからのバトルもなくスムーズにスタートで来た。折り返しのブイではいつものバトル。そして、後続からスイマー達の追い上げと、結構波・うねりもありいつもより海水を飲み込むことが多くむせることが幾度ありましたが無事に3Kmを泳ぎ切る事が出来ました。

※タイム：公式 1:01:50 (Ag24位/36人中) average 2:03S/100m



ガーミンGPSを後で見るとわりと蛇行が少なかったと自己満足海流もほとんど感じられなかったのも幸いです。

スイムから陸に上がると、450m先のトランジットまで緩やかな坂道をウエットスーツ姿でひたすら走る。

トランジットに着いた時には息が上がってました。

いつもより落ち着いてトランジットがスムーズに出来、早々にバイクスタートが出来たと思います。

◇バイク：114Km (38Km×3周)

バイクコースは、一ヶ所高低差約65mの丘を超える程度でほぼフラットなコース。

(でも、3周回するので6回も昇り降りします。)

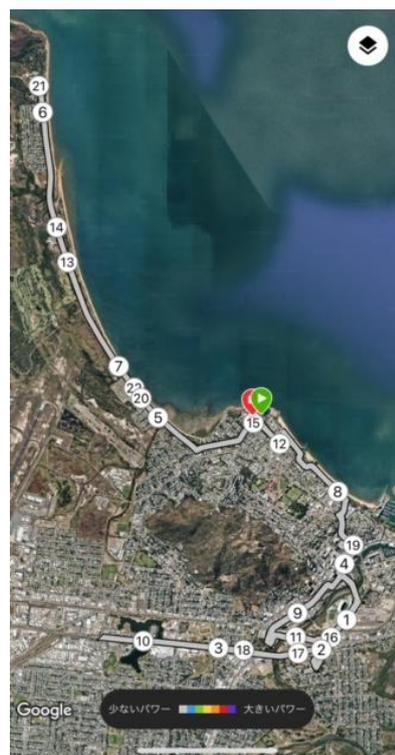
コースの路面状態は日本よりもはるかに綺麗。街中を走ったり、途中サーキット場を入ったり出たり、空港の滑走路横を走ったり、海岸道路では3Kmの平坦な直線道路を走るといった素晴らしいコース。日本では味わえないコースを走らせてもらいとても感動しました。メイン会場の横を走る時は、応援する人達でいっぱいでお祭り騒ぎで盛り上がりが凄い。テンション上がります。

とても素晴らしいバイクコースだったのですが、Uターンの折り返しポイントが多いことと、この地方は風が半端じゃなく向かい風はかなり悩まされました。

また、海外選手のバイクの脚力は半端じゃない！私が40数キロ/hで調子よく走っているにもかかわらず、アクアバイク競技の選手達(私のスタート時間30分遅れでのスタート)が後ろからスイスイと抜いて行く。それについて行こうと必死に漕ぐもあつという間に離される。おかげで自分の足はパンパンになりランに影響をおよぼしそうになる？



まだこのころは前半で元気！



サーキット場をひたすら走る  
(入ったり出たりで6回も走る)  
めったにない経験でした。

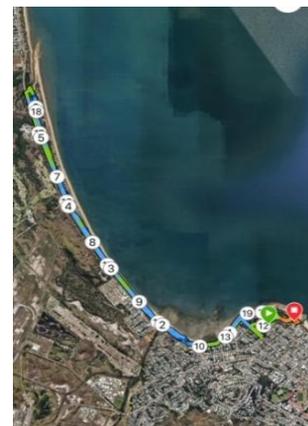
※タイム：公式 3:37:57 (Ag14位/36人中) average 31.4Km/h

◇ラン：30Km (12Km×2周+6Km×1周)

案の定、バイクで足を使いすぎてランシューズに履き替える時に既に攣りまくり！  
なんとかすり足歩行でスタートするもスピードに乗れない。芍薬甘草湯68のおかげで少しづつ回復すると思うような走りが出来ない。ちょっとでもスピードを上げようとすると、またもや攣りまくり。5分/キロが切れない。

コースは、折り返しまでは平坦な直線道路を走り、折り返しからは海岸線に沿ってくねくねした遊歩道を走り途中、木で作られた橋を渡るちょっとしたアップダウンのあるもほぼフラットな景色の良い綺麗なコースでした。

ラスト5、6キロの地点で同じエイジの北海道から参加の\*\*さんが後ろから「井上さんどうした？」と声を掛けられたが「もうダメ！」と返すのみ、みるみるうちに遠ざかって行ってしまい情けなかった。後でわかったことですが、なんとここまでは日本人エイジTOPだったのに！  
苦しい走りでしたが、JAPANメンバーがすれ違うたびに声を掛け合い励まし合いながら走る。。



ゴールは笑顔で！  
のはずが・・・  
厳しい表情

そして、沿道の賑やかな応援（他国の皆様からも「Nice Ran！ JAPAN！Fight！」の激が飛び交う）もあってとても力になり楽しくレースができました。  
最後ヴィクトリーロードでは、足を引きずりながらゴールする姿が動画に残されてました。

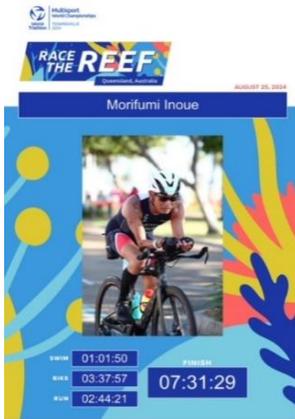


※タイム：公式 2:44:21 (Ag7位/36人中) average 5:29S/Km



ゴール後の安堵の姿  
(周りは冬を感じさせる落ち葉だらけ)

ランはちょっと悔いの残る走りでしたが、私にとってかけがえのない時間となり貴重な体験をさせて頂き本当に参加して良かったと思いました。



(今大会の記録)

時間 7 : 3 1 : 2 9

総合 : 4 8 4 人中 2 5 1 位

エイジ 6 0 - 6 4 8 位

目標としてたベスト10入りを果たす事ができ自分自身としては満足です。

【記録証】

◇レース後の表彰式&アワードパーティー

日本人代表選手はだれ一人表彰台の上ることはできず残念でしたが、JTUの会長さんを含めエリート選手の方々と選手団一同楽しくフィナーレを迎える事が出来ました。



楽しいパーティーも終え、2Km先のホテルまで海岸通りをオーストラリアのメダリスト達と盛り上がりなら名残惜しいげに

ホテル帰りました。ほんとみんなテンション高〜い！

ホテルに帰るとぐったり爆睡です。

明日は、一日中フリータイム、観光に行くぞー！で、就寝。

◆8月26日(月) レース翌日 AM6:30 起床

朝食後、AM7:30 ロビー集合で野生のコアラを探しにマグネチック島へ。

フェリー乗り場までウォーキング、フェリーで約25分 マグネチック島へ行き、それから生息地域までバスで15分移動。(なんとバス運賃フリーパス券で1\$ 安い)



到着すると案内板に沿って約往復4kmの遊歩道をあちこち見ながらコアラを探す。



結局、2h歩き回って3匹のコアラを見つけることが出来ました。夜行性のコアラですがこの内1匹は起きてくれて愛敬を見せてくれ、初めて見るコアラに感動しました。



後の2匹はおしりしか見せてくれなかった。

次にカンガルー&ワラビの生息地域に足を運んだが発見できず。

ランチ後は、Castie Hill(キャッスヒル)に登山。の、計画でしたがみんな昨日のレースとコアラ探検で疲れすぎて登山は断念。夜の慰労会まで温存することに！

夜は新規一片ステーキハウスの店が立ち並ぶ街へと足を運ぶ。

道中夕日がとても感動的。

いざステーキ (いやここでもでかい最低 300g)

ビールも美味しい。



皆さんの食欲には驚き  
あっという間に 300g をぺろり  
流石アスリートです。

ここで飲み足らず、、、この後、部屋のみへ。それにしてもみんな元気なアスリート達。  
明日の早朝(AM3:30)にホテルのロビー集合の為、名残惜しいけどほどほどにして就寝。

#### ◆ 8月27日 (火) 帰国日

早朝 AM4:00 ホテル出発。またもや大型バスでの5hの旅。疲れと安心感からバスの中でみんな爆睡状態。

PM12:00 ケアズ空港発で一路成田空港へ 成田空港着 PM18:30



【最後の記念撮影】

最後まで一緒に行動を共にしてくださった6人のメンバーともここでお別れでした。  
とても仲良くして頂き私にとってかけがえの時間で感謝いっぱいです。



【成田上空夕日】

地方から来た私と大分の方は成田でもう一泊。

なぜか名残り惜しく、またもや二人で慰労会。



成田のホテルにチェックインしたのが 22:00 が過ぎた。

贅沢にも成田のホテルの部屋が最上階。

そこからの夜景。ここでもちょっと癒される。

◆おまけ

8月28日（水） 帰宅日 東京観光

せっかく東京に来たのだからと、東京の友達に付き合ってもらい東京観光。



浅草で、もんじゃ焼き & お好み焼きを食べ、東京スカイツリーへ。



実は私スカイツリー初めてだったんです。

その後、PM17:15 羽田空港発 PM18:40 出雲空港着

PM19:30 無事に自宅に帰宅しました。

この海外遠征、ほんとうに楽しい日々であったという間の7日間でした。

（オーストラリア/タウンズビル戦での感想）

・・・何度か重複する言葉が出るかもしれませんがご了承ください。

初めての大会（世界選手権）に出場させて頂き私にとってかけがえのない時間となり、本当に貴重な体験をさせて頂きました。

レースについては、海外選手の強さに圧倒され、特にバイクのレベルは日本人には立ち向きできないほどでした。脚の太さ脚力にはびっくり！

そして、大会会場での雰囲気がとても賑やかで素晴らしい。レース当日もですが前後もお祭り風土で、選手を非常に盛り上げて頂きました。

ちょっと日本では味わえないくらいの雰囲気です。

今回、何よりも楽しかったのは、日本各地方から選ばれた代表選手「team JAPAN」メンバーの皆さん（応援団も含めて）との交流で共に楽しく行動出来た事です。

特に、その中でも意気投合し仲がよくなったメンバーのお蔭でレース以外にも楽しい日々を送らせて頂きました。今でもグループLINEで交流もあり沢山の友達も出来ました。

気候は、オーストラリアは南半球で冬なのに、赤道に近い事もあって平均気温が25度。

雲一つなし晴天、照り付ける日差しは焼けそうに暑いけど日本みたいにじめじめ感なくカラッとしている。ただ、風が強い為日陰は涼しい。周りは、冬を思わせる落ち葉だらけで冬を感じさせるが、気温は真夏？変な感じがしました。

この街で感心したのは、ゴミが一つも落ちていないこと（海岸のビーチも綺麗）

（分別されたゴミ箱が設置され、みんなきちんと守って綺麗に扱ってる）

そして、落書きなど全くないことに感心しました。

食事は全く問題なく美味しい、しかし、量が半端じゃない。

皆さんも機会があれば是非とも参加してもらいたいな！と、思いました。

来年は、スペイン/ポンテベドラ（時期はまだ未定）だそうです。

協会の推薦枠もあるそうなので、お金・時間の余裕のある方は是非お勧めします。

◎今回の経験をもとに海外遠征時に注意する事！

- ① 荷物は極力少なく軽量にする。超過するのであれば事前に申請して前払いがお得。
- ② パンク修理用のポンベは、もっていかない。持っていくなら申請が必要で、直ぐに取り出せるようにしとく。いちいちバイクケースを開けてチャック（ポンベの確認）がある。
- ③ 現金はほとんど使わなくカードでいけます。両替するのであれば小額で！  
（余った時の両替は手数料を取られますので要注意！）  
クレジットカードは、2枚以上持ってた方が良い。カード会社によっては使用后不正と思われ止められることがある。予め事前にカード会社に申請するか、若しくはゴールドカードだと無難です。
- ④ オーストラリアの場合、生もの、液体系 100ml 以上は持ち込めなく没収される。  
実際に、私の場合検疫検査でレトルト食品、ゼリー飲料をかなり没収されました。

以上、まとめることがへたくそで長文になり大変失礼しました。

井上 盛文

## 第 42 回全日本トライアスロン皆生大会

平塚 洋介

昨年度は最高気温 37 度の過去最高気温の大会、今年は最高気温 27 度の上にならずと雨ということで余裕だと思った皆生大会。なめてかかってたら両脚攣りまくり制限時間まで残り 1 分 48 秒のへろへろ&ヨレヨレの最後から 4 番目ギリギリで完走しました。

今回も宿泊。地元民御用達の温泉施設オーシャンの運営するビジネスホテル。温泉・朝食付きで 6,600 円。会場まで遊歩道で一本道。喫煙ルームしか空室がなかったので臭かった。というか禁煙ルームはないのでは…。

起床。6 月大雨の福山トラの時も前泊し、飲酒して市販の睡眠改善薬ドリエルを飲むも全く効果無し。今回は飲酒せず、さらに早く 21 時に消灯してドリエル投入。全く効果無し。隣人は 23 時くらいに温泉から帰ってきて秒でイビキかきやがった。才能やで。それでも 23 時~24 時には寝れたっぽい。宿泊したおかげで約 5 時間寝れたっぽい。松江組より 1 時間多い睡眠を 6,600 円で買ったようなものだ。ホテルから会場までにトラブル発生。東山に送る袋、バイク袋、ラン袋は背負ってチャリに乗るがウェットスーツの袋は手にもって運転して、ブレーキしようと思って両手ハンドル持ったらフロントホイールスポークにウェットの袋が干渉して巻き込みジャックナイフで転倒。スローモーションで自分が回るのが分かった気がした。背中に荷物満載だったのでクッションになり無傷。ホイールも大丈夫。しかし大会中装着義務のあるリストバンドが千切れてしまい焦る。本部に行ったら受付に行ってくれと言われ受付行ったら本部に送り返された。でも無事に再発行して貰った。受付行ったときに当たり前だけど受付してアングルバンド装着したので僕は安心だったけど、この時点で受付時間過ぎていたのでチームメートには心配をかけただろう。こちらは朝イチで汗だくになりました。次からは苦しくても荷物は全部背負うと決めた。

スイム 3km。今年は一斉スタート。超バトル。かなり後ろから出たけどダメだった。複数初殴られた。そんな中今回はガーミンの GPS も問題なく拾って 500m でラップ音が 19 分。遅くね？まあでもまだ混んでる、次の 1000m のラップ音が 18 分。遅くね？まだ混んでる。テトラ左折してちょっとゆとりが出て中間地点 1500m のラップ音で 14 分合計 51 分、水飲んでゴーグル微調整して復路へ。最初は混んでたけど徐々にゆとりが、復路は 31 分。開会式の時に波高 0.5m 往路方向に潮の流れがありますって聞こえたけど流れ真逆だった模様。たどり着かなかった感覚無かった自分の鈍感力がやばい。そして右コンタクトだけスイム中に取れちゃう問題が久しぶりに発生。慣れたもので、T1 に手鏡&手洗い用の水ペットボトルを持ち込んでいるので事無きを得る。今回は潮の流れが鬼門だったようでスイム往路で 1 時間の関門アウトの選手多数。開会式の説明と真逆の潮流だった模様。今大会まで往

路の関門があるなんて知らなかったです…。

T1。ガーミンにウェット脱ぐときにふれてしまい記録は不明。バイクジャージとバイク用のビブスタイル。で今回グローブが大事だと思った。

バイク 140km。防寒&大雨&腹冷え対策で防風防水ベストを背中ポッケに入れる。両サイドには補給食。しかし去年はソフトフラクスにゼリーの 8 本投入していたのをすっかり忘れて 8 本バラバラに収納。背中ポケットは満載だった。気温的に降雨スタートだったけど去年より快適だわって思ってたのも束の間、やはり路面ウェットだからか降雨なのかスピードは予想より出てない。最初の信号がいきなり赤だった。トップから 1 時間遅れた模様。ウケた。カーブも下りも慎重になりすぎる。大山の登坂も雨なんで苦ではなかったが、ペンション村からの下りは寒かった。植田正治エイドでベスト着ようか迷ったけど時間ももったいないので進んだ。食はレモン 2 切れだけ頂く。歯にめちゃはさまったけどな。往路白鳳も雨なんで苦でなく、ねんがんの先行する選手とスライド区間に。しかし雨なんでチームメンバーもよく分からん。元気貰いたかった。中山でトイレ休憩。食はゼロ。復路白鳳も雨なんで苦ではない、でもこの辺で足ピキピキ。なんとか軽く回してゴール。今年はマイボトル 2、皆生ボトル 2 で十分だった。マイボトルは余ったくらいだ。結果去年より遅かったけど無事にバイクを終えれた。

T2。背中傷跡が心配なんで用意していたバックジップのトライアスロンスーツに着替えずバイクジャージのまま。胃腸のためにへパリーゼを飲む。不要かと思ったがハイドレーションも背負う。粉末だけ入れておいたのでエイドで水フルではなく 1.5L 程度を補充した。T2 はトイレ込みで 9 分かかった。最悪の最悪を想定して長袖ウィンドブレーカー的なのをリュックに入れていたがそれは絶対に不要と確信し外した。

ラン 40km。残り時間 6 時間 32 分とこれは余裕だわとスタート。スタートした時は雨が止んで、めちゃ蒸し暑かった、同じ時間帯にスタートした見知らぬ同志たちもミストサウナじゃんと言ってた。チャリが雨だが気温は快適だったのでその落差だろう。聴覚障害の方の伴走ランナーさんがめちゃ的確でコースなりを声に出して引っ張ってもらったが、ちょっとというか随分僕のペースより速くて 2 キロで終了。一人旅。信号区間は赤になれ〜という魔法のおまじない。去年は猛暑で過酷だったのに折返しまでは歩かなかったが今年は早々にダレる。背中のベストが入れてあるジップロックを出して氷を入れて冷やしながら歩いたり走ったりで何とか折返し 20 キロ地点まで進む。ジップロックは必需品やで。残り 3 時間 30 分で 20 キロ。これは今年も貰ったと思って復路 22 キロ地点で人生初両脚ふくらはぎが同時に攣って背中側に倒れる。ハイドレーションのリュックがクッションで無傷。今思えば背負っててラッキーだった。リュックなかったら怪我してリタイヤだったかも。遠くのエイドからスタッフさんが来る、ランナーも来る、観客の方も来る。申し訳ない。ただ攣

ただけですと笑顔で。ここで4分弱休憩した。ここから急に不安モードになる。18キロを180分。この両脚でキロ10分の速歩きは厳しい。とにかく進むしかない。根性。10歩でも走ってすぐ痛くなったら歩いてを延々と繰り返し、エイドではエアサロンパス的なものをフルでかける。いかにして楽に走れるか探り、ついにすり足走法を編み出す。ザッザッとシューズ足底削りながら進む。これが一番楽。でも10歩20歩しか走れない。29キロ地点エイドで残り11キロと言われ、なんとか行けるかと思い、次のエイドで残り11キロと言われて絶望。時間ないからここはスルー。そんなことはないと思奮い立たせて進み、中海テレビエイド残り5kmで制限時価残り50分くらいというところで何とか心をつなぎ、ホリデイエイドで残り3キロと言われギリギリ、少し進んで最終エイドで残り2キロと言われ15分。平常時なら楽勝だが、ここでついにもう明日歩けなくていいからという気持ちで火事場の馬鹿力で走った。そしたら100mくらい走ったら看板にゴールまで1キロと出た。あれ詐欺？スタジアム手前残り500mで残り5分。ようやく完走を確信した＝歩いた。

ゴール間近になってから今まで投稿した言葉で「ゴールが近づくと皆生大会が終わってしまう寂しさがある」という言葉と「絶望の二文字を背負いながらのランは経験した者で無いと解らない宇宙的な辛さだ」という言葉を思い返して、今回は100%後者。嬉しい気持ちよりも今回全く減量できず去年より5~6キロ増で大会に臨んでしまった自身の不甲斐なさに泣けてきた。スタジアム入ってすぐの場所でチームメンバーが出迎えてくれた。一体何時間待って頂いたのか。感動しました。心から御礼を。

ゴール後、宿泊してて心から良かったと思った。こんなんでお隣松江とは言え帰りたくなかった。チームメイトにホテルまでに送って頂き、東山ではシャワーなんて生意気なこと言えないのでホテルでシャワー浴びて東山にクルマで荷物とりにいって、随分遅くなったものの家族に完走を伝えたら、そっけない返事。子供たちに関しては既読スルーや。またまた速報サイトをチェックしてて折り返し時間とか確認してたようです。絶対にダメだと思ってたらしい…。その後温泉に行って部屋に帰ってきて24時前。もう寝てもいいかなと思ったけど、この日朝食以外にレモン2切とカロリーメイト半分しか固形物入れてないし、リカバリー的に必須と食事を求めてにコンビニ行ったらおにぎりもサラダもなくガバオ飯一択だったし。あとつみれスープ。一生忘れない大した旨くないガバオ飯だった。

今回正式なアナウンスはないが僕が750位で僕以下に4名おられ全体1,000名選手登録だと4名に3名完走と終わってみれば難関の大会だったようです。エイドは残り距離がコースマップにも距離の記載があるのできちんと自分で把握していれば絶望も少なかった。残り11キロ詐欺は残り9キロ地点、ホリデイエイド残り3キロ詐欺も残り2.5キロ。最後のエイドも残り2キロ詐欺も実際は1キロ地点で結果的には常にオンタイムだった。そうすると看板が嘘だったのか…。いずれにせよこんなにキツかったことはない。ただいつでもリタイアという選択肢はあったけど、諦めずに前に進み続けることで弱い自分が出なかったという達成感しかないです。速くゴールしたいなんて気持ちは微塵もないけどもう少し

楽に大会を楽しみたいところです。雨の中応援してくださった方、TOの皆様から感謝です。今回の最大の敗因は背中の中の粉瘤が急に化膿して腫れてしまい、大会2週間前のタイミングで摘出手術したことでした。もっと計画的にやるべきだった。これはビジネスにも然りで、何事も後回しにしたらダメだね。

2022年から3年連続で完走してますが、大会の倍率が物語っている通り、以前の人気はなくなってます。来年は多くの島根県協会の皆様と一緒できるのを心より祈念しております。



## 「第6回さくらおろち湖トライアスロン大会」を終えて

(一社) 島根県トライアスロン協会 普及・技術委員長 木村 孝

皆さん、こんにちは。先般9月1日に、島根県唯一のトライアスロン大会「第6回さくらおろち湖トライアスロン大会」が開催されました。運営サイドが大心配した台風10号の動向や会場ダム湖の水不足等環境条件の懸念をものともせず、予定通り開催され無事終了し、安堵しているところです。参加されました選手・スタッフの皆さん、誠にお疲れ様でした。

この度、会報担当者様から本第6回大会のレースレポート寄稿のご依頼を受けましたが、運営スタッフとしての参加でしたので選手目線のレポートが書けません。運営サイド及び協会の普及推進担当者として、本大会に関係した情報やJTU(日本トライアスロン連合)からの情報等を協会員の皆さんへ提供させて頂くことでお役目を果たしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

6回目になりますので、ご存じのことかとは思いますがあらためてこの大会をご紹介します。会場であります尾原ダム「さくらおろち湖」は、県内唯一の常設ボートコース、中国地方最大の公認自転車競技コースを備えており、これらを活用した「トレイルランニング大会」をはじめとするスポーツイベントが季節を通じて開催され、「地域に開かれたダム」として、地元住民や流域住民の皆様から愛されて続けています。本大会はオリンピックディスタンスレースの設定で初回が始まり、リレー部門の設定やキッズチャレンジの併催、COVID-19流行の影響による中止等ありながら今回の開催となりました。初回大会開催時から、自然豊かで美しい景色が楽しめ、トライアスロン初心者にも人気の大会として知られています。スイムは、さくらおろち湖(ダム湖)を泳ぎますので、波や潮の流れの影響もなく泳ぎやすいです。バイクは、尾原ダム周辺道路の緩やかなアップダウンと自然の豊かさを感じることでできる走りやすいコース。そして最後のランは、尾原ダム堰堤上を走る爽快なフラットコースです。

第6回大会の注目点は、カテゴリー1の新設でした。カテゴリー1は、対象が中学生・高校生男女、距離設定はスイム375m、バイク10Km、ラン2.5Km、最大参加者期待数20名(競技実施最少人数3名)というものです。今回このカテゴリーを新設した理由としては、簡潔に言えばJr.選手の力試しの場を提供したいというものでした。ご存じの通り、本協会では未来のトライアスリートの発掘・育成、トライアスロン競技の理解啓発のため、Jr.を対象にした多肢でのキッズスイムラン大会、年間を通じた加茂でのトライアスロン教室、夏期期間の海辺のトライアスロン教室(多肢)、マルチスポーツ体験教室(松江、雲南、江津、隠岐)を行っています。また、近隣の中国四国ブロック内でも同様の大会や体験会を実施されているところもあります。しかしながら、Jr.対象のトライアスロン大会が極めて少なく(特に高校生対象)、実力の評価やモチベーションの維持等に課題が見られるという現状がありました。そこで、島根県協会としては、目の前に迫っている2030年隠岐西ノ島町で開催される国民スポーツ大会も視野に入れて、現状の課題解決の一助としてこのカテゴリー新設の必要性を考え、強化委員長を中心に協会会長、理事で協議され今回の新設と相成った次第です。そのエントリー総数は8名、レース出走者は7名、若さあふれる元気な姿を見せながら、全員が笑顔でフィニッシュいたしました。また、従来からの一般エイジ対象のカテゴリー2(オリンピックディスタンスレース)は、エントリー総数が79名、レース出走者は65名、完走者62名で、余裕の表情でフィニッシュラインを駆け抜ける強者、制限時間と自分との戦いに懸命に挑戦し感激・感動・感涙でのフィニッシュを迎える選手等々、参加者一人一人が個々の心の勝利を強く感じる事ができた大会となりました。



さて、ここで近年のトライアスロンを取り巻く環境の変化についての情報ですが、東京オリ・パラ大会の放映・活躍を通じてのトライアスロンに関心を持つ人の増加や、COVID-9 流行の影響からの大会開催の不安定に伴い、愛好者・会員による各地域コミュニティ活動の活性化が見受けられるようになっていきます。このことにより、今後のトライアスロン競技の発展には、これらを踏まえた計画を策定する必要性が生じています。また、今、スポーツ団体に対する社会的な期待として求められていることとして「1 億総スポーツ社会の実現」「持続可能な開発目標の達成」に対する貢献、「組織ガバナンスの強化」があります。「1 億総スポーツ社会の実現」に対する貢献とは、スポーツを通じた健康増進による健康寿命の延伸や社会全体での医療費抑制への貢献であり、「持続可能な開発目標の達成」に対する貢献とは、SDGs に対するスポーツ団体としての目標達成に向けた取組、「組織ガバナンスの強化」とは、スポーツの普及・進行の重要な担い手であるスポーツ団体の適正なガバナンスを確保することです。もちろん我ら一般社団法人島根県トライアスロン協会にも、これらのことが求められています。

続いての情報ですが、JTU(日本トライアスロン連合)が愛好者や会員に対してトライアスロンの普遍的な価値を調査されたところ、「フィニッシュ時の圧倒的な達成感」「複数種目を通じた健康効果」「長く続けられる生涯スポーツ」が挙げられたそうです。JTU は社会的な期待、責務、トライアスロンの普遍的な価値を踏まえ、「だれもが生涯スポーツとして健康的にトライアスロンを楽しむ」世界の実現を目指しています。「だれもが」とはジェンダーなど不平等の解消/共生社会の実現/地方創生/国際交流、「生涯スポーツ」とはスポーツを通じた健康増進、「健康的に」とは自然環境保全/心身の安全安心確保というものです。そこで、JTU は普及拡大に向けたストーリーとして、トライアスロンの門戸を広げて「する人」「ささえる人」を増加させた上で、「みる人」を増やし、そこから更に「する人」「ささえる人」への移行を促すことを考えられています。

これらのことを「さくらおろち湖トライアスロン大会」と関係づけて考えてみますと、門戸を広げるトライアスロン登竜門的なコースや時間設定、過去のリレー部門やキッズイベントの併設、そして今回の Jr.対象のカテゴリー設定と、その取組は「する人」「みる人」の広がり期待したものとなっています。また、多くの TO(テクニカルオフィシャル:公式審判員)とボランティア等スタッフの皆さんの絶大なご協力により大会はしっかり支えられ、「ささえる人」が集まる大会ともなっています。本協会のトライアスロン大会を「つくる/はぐくむ」取組が、スポーツで「あつまり、ともに、つながる」場を広く提供することとなり、それによって今スポーツ団体に求められている社会的期待を果たすことの一つになりつつあるのです。

最後に協会員の皆さんに提案します。次回「第7回さくらおろち湖トライアスロン大会」には、「する人」「ささえる人」「みる人」のいずれかで参加されませんか？ 期日は2025年9月7日(日)です(2024.9.23 時点)。その日が(一社)島根県トライアスロン協会員全員の皆さんが顔を合わせる「しまねのトライアスロンの日」というものになればと大いに期待しています。

皆さんで「さくらおろち湖トライアスロン大会」を盛り上げてまいりましょう。



## 第21回キッズスイムラン in 多伎と題して

キッズスイムラン in 多伎実行委員会

岡 秀樹

9月8日（日）、第21回目となるキッズスイムラン in 多伎を多伎町キララビーチにて開催致しました。

この度は、20名のエントリー（当日の大会参加者は19名）があり、参加者全員がゴールし無事大会を終えることが出来ました。大会開催にあたり、ご協力いただいた多くの方に改めてお礼を申し上げます。

さて、今年で21回目を迎えることになったこの大会ですが、この21回は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止した2020～22年の3年間は回数に含んでいませんので、実回数（2007年は台風による高波の影響で前日中止）となります。偶然ではありますが、第1回大会はちょうど2000年に行われました。

島根県トライアスロン協会は、1997年に設立され、設立記念として開催した「えびすだいこくマラソン」をはじめ、「デュアスロンひいかわ」「6時間耐久スイム」など、当時の主要メンバーを中心として、積極的に大会を企画・開催している時期でした。このキッズスイムランも開催前から数名の協会関係者と私の嫁・長男・長女で、NHK松江放送局のイベント告知コーナーへ出向き、大会のPRをするなど、かなり前のめり始まったようです。今でも、当時3歳の長男と生後6ヶ月の長女を連れて大会PRに駆り出されたと、嫁が含みを持って話してくれます。

元々この大会は、スイムラン多伎の前日の土曜日に開催していて、スイムラン大会の応援に来ている選手のお子様などにも参加できる大会として、スイムラン前日に子供の応援をして、翌日は子供が大人を応援するような週末をスイムランという共通の競技で楽しんでもらう事で、自然を舞台にしたマルチスポーツに子供の時から触れてもらい、トライアスロン競技の普及や発展を目指してスタートしました。

今年の大会は、コロナ明け2回目の開催でした。コロナ前まで開催していた8月の第1週では猛暑が大きな問題となっていたので、コロナでの中止を境に開催日を9月に変更した事で猛暑の課題はある程度解消されたように思えます。私もキララビーチでライフセービング活動を行っていますが、近年の8月はあまりにも暑く、海水浴さえ厳しい状況だと思えます。そういった意味でも、今年の9月8日は、まさに海水浴日和とも言える良いコンディションで、キッズスイムランとしても非常に良い環境だったと思います。

しかし、スイムラン多伎の前日や夏休み開催でなくなった影響もあり、昨年の参加者は14名と少なく、少し寂しい状況でした。その為、今年は早めに申込みを開始し、コロナ前までとは言わないものの参加数増を期待しましたが、申し込みがなかなか進まず、開催が危ぶまれました。それでも、最終的には昨年よりも参加者が増え、皆さんに大会を盛り上げて頂きました。

これまでの大会には、延べ656名の参加がありました。1大会あたり30数名の参加数ではありますが、ここまで多くの方にご協力を頂き、大きな事故も無く大会を開催出来た事は本当に幸運だったと思います。

ただ、大きな事故はありませんでしたが、トラブルは多々ありまして、私がまだ若かりし頃？に始まったこの大会によって、今の私に大きな影響があった訳ですが、まあそれも幸運だったという事になるのでしょうか。

今の子供たちは、外で遊ぶ機会が減っていると言われていています。都会では遊び場も少ないでしょうし、田舎は遊び場があっても少子化で兄弟や近所の友達も少なくなっていると聞きます。週末に遠方の友達の家へ親が送迎しても家の中でゲームをして遊ぶといった状況でしょう。田舎では通学も小学校などの合併で校区が広域化しスクールバスの送迎です。高校では重役の生徒も増えているようです。大事な成長期に恐ろしいほどの運動不足です。

学校の始業前に30分運動した子供は15%成績が向上したと本で読んだことがあります。しかし、逆に野球やサッカーなどスポ少に通っている子供など、特定のスポーツを週に4日以上1回2時間以上行くとスポーツ障害の発症リスクが高まると聞きました。今では、スポーツ障害への理解が進み、放っておいたら治るとか、成長期だから仕方ないなどの考え方は通用しません。

子供の頃は、よく遊び・よく食べ・たくさん寝る事が重要です。偏ったスポーツではなく、様々なスポーツを経験することが、中学生以降の競技スポーツにおいても基礎的な能力を高め、障害のリスクを減らすことに繋がると思います。

スイムランという競技はバイクを使用しないため、参加のハードルも低く、用具に高額な負担を掛けられない子供にとっても、トライアスロンのような競技に触れる良い機会だと思います。他の競技をやめてトライアスロン専門で取り組んで下さいとは言いません。様々な競技を経験する中にトライアスロンのような競技も加えて貰えればと思います。

協会では、キッズスイムラン以外にも、月1回のトライアスロン教室やチャレンジシリーズ(桜江、松江、隠岐の島、加茂)など定期的に子供を対象にした企画を行っております。協会員の方もご都合で構いませんので、ご協力頂ければ幸いです。と、最後にお願いで締めたいと思います。

## 【大会報告】

### チャレンジ隠岐の島 2024～ジュニアトライアスロン～

隠岐の島町 加藤一朗

8月24日（土）隠岐の島町中村海水浴場周辺において、チャレンジ隠岐の島 2024～ジュニアトライアスロン～を開催しましたので報告致します。

参加者は小学2年生4人、3年生1人、4年生1人、5年生3人の計9人でした。今回自転車レンタル希望の児童が多かったため、島根県トライアスロン協会の母里さんには、本土から自転車を沢山運んで来てもらい、児童に合わせて調整をしてもらいました。また、同じく島根県トライアスロン協会の下田さんには、レース前に事前に自転車・ランニング・水泳の安全教室を開催してもらいました。お二人には厚く御礼申し上げます。

さて、ジュニアトライアスロンのコースですが、水泳は透明度抜群の中村海水浴場の足の着くところで砂浜に平行に25mロープを張り、低学年は25m、高学年は25m泳いだのちに一旦砂浜に上がってスタート地点まで戻り25m×2泳ぎました。自転車は海水浴場隣の漁港の1周500mのアスファルト道路を低学年は2周、高学年は4周走り、ランは芝生を中心とした海水浴場隣のスペースを低学年は500m弱、高学年は1000m弱走りました。

参加した児童達の多くはトライアスロン初体験でしたが皆完走し、終了後「楽しかった」「来年も出たい」と児童から声が聞けたこと、また参加児童の親御さんだけでなく地元の中村地区の方々から熱い声援をいただいたことで、2030年国スポトライアスロン隠岐大会にむけて第1歩を確実に歩むことができた実感しました。

これまで母里さんを中心に島根県トライアスロン協会の皆様には隠岐の島のジュニア育成にはご尽力いただいておりますが、今後ともご指導の程よろしくお願ひ致します。



## 【レースレポート番外編】

### 隠岐古典相撲大会

隠岐の島町 加藤一朗

この度9月14日(土)に開催された隠岐古典相撲大会に参戦してきましたので報告致します。トライアスロンとは全く関係ないですので、相撲に興味ない方はどうぞスルー下さい。

もともと隠岐は古くから相撲が盛んな地域で、大きな祝い事がある度に島の力自慢が集まり、徹夜の相撲を奉納してきました。今回は隠岐の島町合併20周年を祝い、力士が220人集まり12年ぶりに開催されました。

隠岐古典相撲大会の他に例をみない特徴は2つあります。1つは夜通し相撲をとる人情相撲であること、2つ目は力士達が各地区代表として名誉のために相撲をとることです。まず夜通し相撲をとりますが、9月14日午後役場の駐車場に作られた特設土俵の周囲に力士たちが集まり(それも単に集まるのではなく、長襦袢を羽織った力士が町中を闊歩して)、17時に顔見せといって全力士が土俵に上がり一人ひとり紹介を受けます。その後中学生の取り組みが始まり、割相撲・飛びつき5人抜きといって様々な取り組みが行われます。そして翌朝から役相撲と呼ばれる各地区で大関・関脇・小結に選ばれた力士の取り組みが始まり15日の12時過ぎに終了となりました。ちなみに私が相撲を取ったのは深夜2時頃でした。また、相撲は必ず同じ相手と2回行い、1回目に勝った力士は2回目必ず負けた相手を勝たせるといふ決まりがあります。これは小さな島でお互いに勝負事で禍根を残さないためにと人情相撲と呼ばれる所以です。

2つ目の各地区代表というのは、まず役相撲に選ばれるためには、毎年行われる全隠岐相撲大会で成績を残すだけでなく、いかに地域に貢献しているのかが評価され地区代表として選出されます。実は隠岐古典相撲大会を題材にした映画「渾身」の中でも、俳優の笹野高史さんが「ただ強いだけじゃ駄目だけん」と言っていました。また、役相撲をとると、特設土俵のやぐらの柱をもらうことができ、終了後は柱にまたがり地区の人たちが担いで凱旋パレードを行い、そして柱はその力士の家の軒下に飾られます。私のように役相撲力士に選ばれなくても古典相撲大会に参戦するためには、1か月前から地取りといって各地区の土俵で行われる練習会に日々参加(時には飲み会も)すれば、私のような素人でも、地区の方々に出てもいいよと言われます。

古典相撲にご興味のある方は下記のYouTubeでアーカイブをご覧ください。私は後半の15分頃に出場します(向かって左側)。



前半



後半

## 【連載】

### <新米審判員メモ①>

隠岐の島町 加藤一朗

私はJTU公認審判員3級資格をずいぶん前に取得したのですが、コロナ禍もあり実際に審判員としての初参加は令和5年8月開催の第5回さくらおろち湖トライアスロン大会です。その後令和6年6月開催のさくらおろち湖スプリントトライアスロン大会、9月開催の第6回さくらおろち湖トライアスロン大会と、まだ3大会の審判員としての活動しかない新米審判員ですが、皆さんに知っておいてもらいたい（私も審判員になって初めて知った）トライアスロンのルール等を今後連載企画として紹介していきたいと思います（ネタが無くなれば突然終了するかもしれませんのでその際はご了承下さい）。皆さんのレース参加の参考になれば幸いですし、これを読んで審判員の資格を取ってみたいという方がおられましたら是非私までご連絡下さい。

#### 競技共通事項

##### ・個人的援助の禁止

応援者またはコーチが特定の選手と伴走または追走すること、拡声器を使って特定の選手に対して応援、指示又は他の選手との時間差を伝えることは禁止

→皆さん応援するときにはご注意ください

##### ・レースウエア

仮装すること及び公序良俗に反するレースウエアは使用してはならない。ただし、大会規程により仮装を認める場合は、競技に著しい支障をきたすもの及び公序良俗に反するものを除き仮装をすることができる。

→仮装OKの大会ってある？そもそも公序良俗に反するウエアってどんなの？

ジッパーは背面に設け、その長さは40cm以内とする。ユニフォームの前面にはジッパーを設けてはならない。ただし、ミドル、ロングディスタンス大会では前面にジッパーを設けることができるが、競技中は胸骨の下の位置までジッパーを下げることは出来ず、フィニッシュ手前からはジッパーをしっかりと閉じるものとする。

→皆生大会でも結構ジッパー下げる選手を見かけますが、見苦しいからダメ？

##### ・ボディマーキング

複数の数字を使用するボディマーキングまたは転写シールは、上下になるようにし、横並びとしない。

→確かにそうですが、間違えそう。



# 浜田トライアスロンクラブ

当クラブは、20数年前からトライアスロンに取り組んでいるメンバーを中心に、全日本トライアスロン皆生大会の出場を目的に約20名が集まって、組織された同好会です。メンバーは浜田市、江津市、松江市、大阪市在住で30代～70代と幅広いメンバーがそろっています。スイミングは、ほとんどのメンバーが本拠地の浜田スイミングスクールの会員なので、日曜日以外の仕事終わりに練習しており、プールでのコミュニケーションが憩いの場となっています。

Eメール：

[hamada.triathlon@gmail.com](mailto:hamada.triathlon@gmail.com)



## 島根トライアスロンクラブ

島根トライアスロンクラブは、昭和60年頃に設立され、協会設立前から島根のトライアスロンの草分け的存在となったクラブです。それゆえに、創設メンバーは良く言えばレジェンド揃いですが、一般的には高齢化といったところではあります。それでも、トライアスロンで培った情熱は、今も様々な場面で輝きを放っています。

このような島根トライアスロンクラブで、次代の先頭を切っていくあなたの入会を心よりお待ちしております。

事務局：岡 秀樹

E-mail: [okshimatora@gmail.com](mailto:okshimatora@gmail.com)

<https://shimatora.okesque.com/index.html>



# Team SSS

2019年に松江のメンバーを中心に設立しましたが  
現在は県外メンバーを含めて30名程度の所属と  
なっております。

トライアスロンレースは長短問わず参戦しており  
近隣大会以外にも遠方のロング大会にも参戦して  
おります。

練習会は月2回程度行っており野波での3種練、県  
立プール、島根半島ライドなど。

チーム関係なく各種お気軽にお問い合わせ頂けれ  
ばと思います。

広報担当：加藤

お問い合わせ：shark9drive@gmail.com

ホームページQR

インスタグラムOR



## 役員紹介

一般社団法人島根県トライアスロン協会（STA）会長 新井千尋

協会員の皆様、こんにちは。昨年春から当協会の会長を仰せつかりました新井千尋（にいちひろ）です。非力ですが副会長・理事長はじめ各理事と共に当協会の発展に尽力してまいりたいと思いますので、協会員の皆様方のご協力を賜りますよう宜しくお願いします。

さて、ご案内のとおり、島根県トライアスロン協会は本年4月1日をもって、一般社団法人島根県トライアスロン協会となり、新たなスタートを切ることになりました。組織基盤の強化と組織の透明性を図ると共に、更なる会員サービスの向上、トライアスロン競技の普及に努めてまいります。また、2030年島根県で開催される国民スポーツ大会に向けて取組を強化することが求められます。協会役員一同、会員の皆様や関係機関の力も借りながら、こうした課題に取り組んでまいりたいと思います。

なお、法人化に当たり、前理事長の大野徹雄顧問の多大のご尽力、ご貢献があったことをご紹介します、大野様に感謝と敬意を表します。

- \* 会報は従来の郵送を改め、協会ホームページの会員専用ページに掲載・閲覧してもらうことにしました。より多くの方の投稿をお待ちしています。会報を通じて会員の皆様の絆が深まればと思っています。
- \* 写真は、今年の愛南町のトライアスロン大会です。昨年1月に高齢者の仲間入りをしましたが、まだ現役のアスリートとして頑張っています。次は10/20のLAKE BIWA TRIATHLONです。



ゴールして感激浸る我が首に手作りメダル生徒より受く

（千慧）

## 【賛助会員紹介】

この度は一般社団法人島根県トライアスロン協会 (STA) に賛助会員としてご協力を頂き、ありがとうございました。【順不同・敬称略】。

法人会員様は STA ホームページへバナーを掲載させていただきます。

### 【賛助会員】（企業・団体）

- ・ 株式会社 Delight
- ・ 株式会社 CGS コーポレーション
- ・ 島根トヨタ自動車株式会社
- ・ 有限会社はなや不動産コンサルタント
- ・ 株式会社長岡塗装店

### 【賛助会員】（個人）

- ・ 泉 恵孝
- ・ 常松邦夫
- ・ 狩野賢二
- ・ 安井常光
- ・ 三島昭博
- ・ 大野美雄
- ・ 大野道源